

政治解決実現に向け総団結を



諸課題の前進に向け奮闘しよう

闘春

No. 2570
2010年1月1日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

仙台地方本部
橋本執行委員



2010年を迎え、組合員とご家族の皆さんに、新春のお慶びを申し上げます。新たな気持ちで今年一年の奮闘を決意し、採用差別事件の早期解決をはじめとする諸課題の前進に向け、明るく、楽しく、強かに、大きく踏み出しましょう。国労の最大の課題である採用差別事件は、国鉄の分割・民営から23年を経過して、この間に積み上げてきた運動により、全政党が人権問題として、人道的な観点からも、政局とは絡めることなく解決に向け努力することなく、解決に向けた環境が整備されてきました。が、解散総選挙の時期と、混沌とした政治の中で翻弄されてきました。

その選挙の結果は、自公政権に厳しい審判が下され、政権交代で連立政権が誕生しました。そのことにより、解決に向けた期待も高まりましたが、今日まで積み上げたものを大切に、さらに前進するために百ヶ所集会所が取り組まれてきました。「24年目はない。2・16集会所は解決報告集会にするのだ」という、強い決意をもって各地区で訴え、さらなる支援をお願いしてきました。昨年11月9日に解決の日を待たずに亡くなられた菅原次男さんとご家族の無念を晴らすためにも、大切な解決局面を組合員と家族の総団結で、確実に実現させなければなりません。奮闘しましょう。

次に、安全とコンプライアンスについてです。鉄道輸送には欠かせない課題であり、残念ながら昨年にも仙台駅構内で、トロッコ線張替工事中に、協力会社の社員が亡くなるという、大変痛ましい事故が発生してしまいました。この事故の原因や作業方法、勤務実態に無理はなかったのか等、真相の解明が徹底的に行われなければなりません。その他にも多くの事故や輸送障害が発生しており、事故の芽は常に身近に存在しているということを意識し、職場を見直し総点検運

動を全職場から展開し、利用されるお客さまの安全と、働く者の安全を確保し、安心というサービスを提供できる、安全・安定輸送を確立しましょう。また、コンプライアンス問題では、昨年東日本会社は取水問題で、大きく信頼を失墜させてしまいました。この信頼を回復するためには、直剣に取り組まなければなりません。残念ながら会社は問題の本質を直視できていないのではと思われまます。今職場ではコンプライアンスという言葉が多く使われるようになりましたが、言葉だけが一人歩きして、実態が伴っていないと指摘せざるを得ません。これは永年培われてきた体質を、簡単に変えることは出来ないのだと思います。安全もコンプライアンスも、健全な労使関係が不可欠であることは言うまでもありません。職場の中で残っている差別や偏見がなくなることができない限り、達成することたは組合の役割を果たすために努力していきます。

次に、私たち国労が避けられない、組織拡大という急務の課題であります。1月1日付で自動車支部から1名の拡大の報告です。岩崎宏さん(48才・運転係)です。自動車支部では仙台市からの委託業務に関する勉強会を開催し、労働条件等について真剣に議論してきた結果、拡大に結びつけることができました。これで東日本会社との一括和降70名の拡大となりました。国鉄の分割民営時に、国

労組合員に対する差別・選別があり、不当労働行為があったことが、東京高裁で明確に認定されたことは重大な事でした。そして06年11月の一括和解まで、徹底した国労差別が行われ、組織は大きな痛手を被りましたが、職場・地域からの闘いで、差別に屈せず闘ってきた結果、私たちの運動の正しさを「組織拡大」が証明しています。

新採者獲得に向けた取り組みも、それぞれ工夫していただきましたが、残念ながら会社と一部労組の癒着と指摘せざるを得ない状況で阻まれていきます。昨年は福島駅で1名の加入がありました。その中で総務助役が勤務中に、東労組の加入用紙を渡したことが明確になり、その後「寮」という塀の中で脱退させられています。また、貨物では研修期間中ほどの労組にも加入させないとしてきましたが、研修最終日に日貨労に全員が加入させられたと聞いています。そして、東労組も日貨労も加入の呼びかけは、「若い人がみんな加入している組合」という言葉でと聞いています。私たちは遠慮することなく、組合の説明などをも求め、堂々と自信を持って国労加入を呼びかけましょう。

最後に10春闘であります。日本経済が低迷する中、厳しいと言われても、労働組合は賃金要求を堂々と掲げて、春闘に臨まなければなりません。デフレに円高と悪い環境だけが押し出され、我慢を強いられ、生活が益々厳しくなっています。自公政権下で進められた構造改革路線により、

非正規雇用が拡大し、暮らせる賃金が得られないことから、購買力の低下に拍車をかけてきたことが大きな要因でもあり、今こそ輸出最優先から、内需拡大への転換が求められています。そのためには、雇用の安定と賃金引き上げが不可欠であります。JR各社の昨年のベアゼロ、特に貨物に於いては10年連続であり、何としても打破するために奮闘しましょう。今年も多くの諸課題が山積しています。総団結で採用差別事件の早期解決を実現させる決意を固め合い、諸課題の前進に向け、仙台地方本部が皆さんの先頭に立ち奮闘する決意を表明し、執行委員会を代表して新年のご挨拶とさせていただきます。頑張りましょう。

宮城県支部
秋山執行委員長



新年明けましておめでとございます。新年をご家族と共に迎えたことと思います。年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。1点目は、JR不採用問題の早期解決に向けてです。この春この闘いも24年目を迎えます。昨年3月、鉄道公団訴訟控訴審判決が東京高裁から言い渡されました。内容は、厳しいものであります。しかし、東京高裁南裁判長は、「この

判決を期にこの問題が早期に解決されることを望みます。」と異例のコメントを添えました。8月には、種議員選挙で民主党が圧勝し待望の「政権交代」が起りました。私たちは、こつとしたことを力にして一日も早い解決を図らなければなりません。闘争団員の平均年齢も56歳になり、一刻の猶予もありません。当事者の納得のいく解決が早期に実現できるように共に奮闘していきましょう。2点目は、職場の労働条件改善に向けてです。この職場もこの間の合理化によって、仕事に追われている状況になっていると思います。こつとした中で、体を壊し精神疾患や病気になる健康破壊が進んでいます。こつとした状況を労働組合として早期に改善していかねばなりません。社会の主人公である私たちが、健康で安心して働ける職場にしたい。仲間と話し合う「仲間の健康を気遣う」ことから職場の労働条件改善に向けた運動していきましょう。3点目は、組織の強化・拡大に向けてです。国労にとって重要な課題の1つであります。どの分會も仲間が一つの職場に集まっているというところは無いと思います。仲間同士をつなぐ運動が大事になっています。ここが出来ないと組織の強化は進みません。まず、この運動をみんなで議論するところから始めましょう。もう一つの課題である組織拡大は、職場で起きてい

る問題を取り上げてみんな
で議論し、要求を作り上げ
る努力をお願いしたいと思
います。そして、こうした
問題を解決するためには他
労組の組合員も巻き込みな
がら要求をまとめ会社にぶ
つけて改善していく。こう
した運動を取り組む中から
組織拡大を図っていくよう
共に頑張っていきたいと思います。

最後に、この冬は暖冬と
言われていますが、冬はや
はり寒いのです。私たちは
何よりも健康が一番大切で
す。健康に留意しつつ、こ
の一年間、力を合わせてみ
んなで頑張っていきたいよ
う。今年もよろしくお願
いします。

**福島県支部
小檜山執行委員長**



新年明けましておめでと
うございます。

1月1日付の郡山駅にお
ける国労復帰年が明け、
4月には福島駅において県
支部待望である新規採用者
の国労加入と脱退に一喜一
憂。さらには報復とも言え
る分会役員との隣県配転によ
る分会機能の混乱など、福
島県支部にとり激動の年で
あったように思います。

駅助役や同期社員による
執拗な脱退工作によって国
労を脱退するという残念な
結果を教訓に、加入した新
規採用者に対する防衛対策
が支部、分会、班の課題と

なりました。

また、8月に行われた第
45回衆議院選挙において待
望の政権交代が実現し、JR
不採用問題は解決に向け大
詰めを迎えることになりま
した。私たちの課題は、政
権交代がもたらした政治的
解決の有利な環境を活かし、
一昨年11月志半ばで帰らぬ
人となった菅原次男さんと
5名の闘争団・家族、そし
て組合員が、23年間、闘つ
て来てよかった、言える日
を早期に迎えるために、こ
の問題の短期間での政治解
決につなげていくことにあ
ります。

10春闘では、今年も仕事
総点検運動の一環として
「組合員一人一要求」に基
づき各分会が創意工夫しな
がら要求実現のために取組
み、また2月6日には第3
回支部春闘討論集会を開催
する予定です。

安全問題では、「非常事
態宣言」発令中においても
2年連続で電力関係外注労
働者の死亡事故が発生する
JR東会社、貨物及びJR関連
で働く仲間の実態を共有し、
労働者の命を守り労働条件
の改善と輸送の安全を目指
し運動を取り組んでいきま
す。

今年も職場改善の国労を
アピールし諸課題の前進に
向けて邁進しましょう。

**仙台総合車両所支部
庄司執行委員長**



新年明けましておめでと
うございます。

今年も仙台総
支部をよろしく願いま
す。現在、私たちの職場で
は、東北新幹線青森開業を
目前にし、新たな新幹線車
両E5系が決定し、時速3
00km営業を目指し様々な
整備が始まっています。
あらためて新幹線車両検
修にたずさわる労働者とし
て、高速化する新幹線の安
全を確保するための取り組
みを強化していかなければ
ならないと決意しています。
また、昨年10月に本社提
案された、車両検修職場全
般にわたる大合理化施策は、
今年以降の私たちの闘いの
大きな課題となります。現
時点では詳細をつかみきれ
ていませんが、東日本全体
で千五百名規模の大幅外注
化を実施するとされていま
す。この闘いは、私たち工
作のみならず、運転職協の
仲間にも多大な影響を与え
るものとして大変重要な闘
いとなります。これから
職協のくくりを越えた運動
の構築が求められている状
況を認識し、国労として協
力し合い、闘いの強化を図
っていききたいと思います。

国労の最重要課題である
JR不採用事件の闘いは、23
年を過ぎようとしている中、
闘いは9合目まで来ている
とも言われる状況を迎えて
います。私たちが考える、
闘争団の仲間の思いが報わ
れる解決を勝ち取るために、
仙総支部も全力を尽くして
いきたいと考えています。
最後に、迎えたこの年が、
すばらしい解決を勝ち取る
一年であるように、また組
合員、ご家族の皆さんのご
健康とご多幸を祈念し、ご
あいさつと致します。共に
頑張りましょう。

**山形県支部
原田執行委員長**



新年あけましておめでと
うございます。

今年、車両検修の外注
合理化、設備メンテナンス
体制の見直しという大きな
合理化があります。車両検
修合理化は、大幅な外注化
による技術継承や車両の安
全精度という大きな問題を
抱えています。設備メンテ
ナンス体制の見直しは、こ
れまでの設備メンテナンス
体制の問題を根本から問
い直し、現在の体制の問題点
から議論をはじめなければ
なりません。さらに、ダイ
ヤ改正合理化が提案され、
全ての職場から要求を出せ
る状況です。私たちの労働
条件改善は勿論のこと、格
差が拡大する現状の中で、
パートナー会社・協力会社
と言われる下請け・孫請け
労働者の仲間の要求も掘り
起こす任務が国労にはあり
ます。

1047名不採用問題は、
11月26日の集会での各党の
代表者の挨拶に表れている
ように解決の大きな山場を
迎えています。闘争団の組
合員・家族の要求「雇用・
年金・解決金」の一日も早
い解決を勝ち取る闘いに全
組合員が全力を上げなけれ
ばなりません。また、解決
後に私たち国労には大きな
課題があります。それは、
この間全国の多くの仲間か
ら頂いた支援に対する恩返

でもありません。
全農林や社保の仲間の雇
用・配転の不安や、格差社
会の中で苦しんでいる地域
の仲間と連帯し、共に闘っ
ていかなければなりません。
そして、低迷する労働運
動の再生に向けて国労の組
織を大きくし、強化してい
かなければなりません。
こうした諸闘争の前進に
向け共に頑張りましょう。

**郡山工場支部
橋本執行委員長**



新年明けましておめでと
うございます。

郡総では、昨年度業務改
善提案でエルダー社員の雇
用確保を口実に、大掛かり
な外注化が実施されました。
これによって国労の仲間
4名が出向に出され、大変
な労働条件で働かされてい
ます。今後は、東日本会社
の労働条件改善と一緒に、
外注会社の労働条件改善を
求めて取り組むことも重要
になっていきます。昨年10月
29日には、東日本本社から
国労本部に今年度の業務改
善提案がされています。会
社は、メンテナンス部門の
前面外注化を強行しよう
としています。郡工支部は、
外注化絶対反対の立場で運
動を進めてまいります。

また、組合を問わず多く
の仲間が、「55歳・57歳の賃
金カット廃止」を求めています。
働き方が同じでの賃
下げであり、制度廃止に向

け取り組んでいきます。第
二基本給についても、退職
金の減額につながる制度で
あり、廃止を求めてまいり
ます。

次に会社間格差の問題で
す。貨物会社は10年間ペア
ゼ口、昨年の年末一時金で
は国労の要求3・5ヶ月分
に対し、東日本で3・06ヶ
月、貨物会社は1・575ヶ
月という超定額回答になっ
ています。貨物は東日本の
約半分であり、全く許すこ
とが出来ません。また、3
月15日にはJRカードが廃止
され、実質的な賃下げにな
りました。会社間格差是正
に向け精一杯取り組んでい
きます。

最後になりますが、不採
用問題です。3月25日に東
京高裁は不当労働行為を明
確に認定しましたが、地位
確認と損害賠償請求を棄却
する不当な判決でした。
しかし、政府が行った
「分割、民営化」における
不当労働行為を断罪してお
り、これらを活かしながら
要求実現に向けて取り組む
ことが求められています。
闘争団の解決要求は、「
雇用・年金・解決金」で
あり、いずれも譲れないも
のです。要求実現のために
「4者・4団体」で団結し
て頑張っていきたいと思
います。今年もよろしくお願
いします。

組合員・ご家族の皆さま
新年明けましておめでと
うございます。
一昨年末には、自動車や
電機産業などの相次ぐ減産
や操業の停止等により請負
や派遣労働者の解雇や退職
強要など、労働者に犠牲を
強い社員寮や社宅を追い出
され「年越し派遣村」で年
末年始を迎えなければなら
ない状況が社会問題となり、
昨年末には、雇用保険の給
付が切れる失業者は百万人
を超えるなど、状況は一向
に改善されておりません。
年末繁忙輸送に一段落し
たのも束の間、年始の混雑
する高速道路への乗務へと
船出する仲間にも吉報をお届
け致します。

**東北自動車支部
大倉執行委員長**



新年明けましておめでと
うございます。

元日、一月一日付けの国
労への新規加入の報告です。
七北田事業所に所属する、
バス社員の岩崎宏さんが東
労組から新規加入してくれ
ました。地方本部を始め全
国の仲間にも紙面を借りて
報告致します。

私たち自動車支部の仲間
は、「差別・選別」の無い職
場づくりと、「働きがいのあ
るバス職場」、モノが言え
る職場づくりを目指すこと
を支部全員で取りくみ、「も
う一人の自分を創ろう!」
を合言葉に、組織の拡大を
支部全員で確認し合い闘っ
てきた結果、一昨年に続き
もう一人の仲間を国労に迎
える事が出来ました。

国労運動の正しさに自信
を持ち、これからも勇気を
持って加入を呼びかけ、安
心して働き続けられる職場
づくりの為に、私達国労が
闘いの先頭にたつて、「総団
結」で今年も頑張りましよ
う。